

2021年4月4日

## 主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒167番（旧 223番）

『救いの主はハレルヤ』

聖書⇒ルカ 24:6~7

『あの方は、ここにはおられない。復活なさったのだ。まだガリラヤにおられたころ、お話しになったことを思い出しなさい。人の子は必ず、罪人の手に渡され、十字架につけられ、三日目に復活することになっている、と言われたではないか。』

礼拝讃美歌⇒164番（旧 222番）

『墓の中にいと低く』

聖書⇒マタイ 28:5~7節

『天使は婦人たちに言った。「恐れることはない。十字架につけられたイエスを捜しているのだろうが、あの方は、ここにはおられない。かねて言われていたとおり、復活なさったのだ。さあ、遺体の置いてあった場所を見なさい。それから、急いで行って弟子たちにこう告げなさい。『あの方は死者の中から復活された。そして、あなたがたより先にガリラヤに行かれる。そこでお目にかかれる。』確かに、あなたがたに伝えました。』

礼拝讃美歌⇒165番（旧 52番）

『主は墓より出でましけり』

《パン裂き》

聖書⇒マルコ 14:22~25節

『一同が食事をしているとき、イエスはパンを取り、賛美の祈りを唱えて、それを裂き、弟子たちに与えて言われた。「取りなさい。これはわたしの体である。」また、杯を取り、感謝の祈りを唱えて、彼らにお渡しになった。彼らは皆その杯から飲んだ。そして、イエスは言われた。「これは、多くの人のために流されるわたしの血、契約の血である。はっきり言うておく。神の国で新たに飲むその日まで、ぶどうの実から作ったものを飲むことはもう決してあるまい。』

礼拝讃美歌⇒146番（旧 61番）

『主イエスは墓より』

《建徳》

ヨハネ 20:19-20節

『その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう

言って、手とわき腹とをお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ。』

ヨハネ 20:24-25 節

『十二人の一人でディディモと呼ばれるトマスは、イエスが来られたとき、彼らと一緒にいなかった。そこで、ほかの弟子たちが、「わたしたちは主を見た」と言うと、トマスは言った。「あの方の手に釘の跡を見、この指を釘跡に入れてみなければ、また、この手をそのわき腹に入れてみなければ、わたしは決して信じない。』

礼拝讃美歌⇒128 番（旧 204 番）

『栄えの主イエスの十字架』

《建徳要旨》

- ①ヨハネ 20 章 19,26 節：弟子たちは恐怖心から家に鍵をかけ閉じ籠っていたが、復活の主は入って来られ、「平安あれ」と言われた。逃げたことや否認を責めたりはしなかった。マルコ 16 章 7 節：さあ、弟子たちとペトロに告げなさい。「あの方は、あなたがたより先にガリラヤへ行かれる。…そこでお目にかかれる」。これは天使が墓に来た女性らに語った言葉。ペトロだけ名指したのは彼に対する主の思いやり。それがここにも示されている。そして、最初に会った地ガリラヤに行き、失意と挫折から立ち上がるよう主は願われた。復活の主に出会うのは、誰にもある魂のガリラヤ（主イエスを信じた最初の時）。復活の主は霊の体に変えられていた。だから復活の主を見ていながら、主だと分からなかった。それをマルコは、**イエスが別の姿で御自身を現わされた(16:12)**と記した。（K・H）
- ②ヨハネ 20 章 24,25 節：イエス様の弟子トマスは、復活のイエスに出会っても、その傷跡を触ってみなければ信じないと言いました。一方、マグダラのマリアはイエス様に後ろから「マリア」と声をかけられただけで、すぐに、「ああイエス様だ」と気づいて、振り向きざま喜びすがりついていった。復活のイエス様にお会いした時の、この二人の違いは一体何なんだろう。トマスはイエスの直弟子です。それに対してマグダラのマリアは罪の女でした。イエス様に救われ、その多くの罪を赦され深く改心し、その後イエス様一行と旅を続けてイエス様をずっと支え続け、十字架の処刑も最後まで見届けたのです。イエス様はこのマリアの愛に対して、復活の最初に出会うという、この世で最も大きな喜びと栄光をもってマリアに報いたのです。この人が**多くの罪を赦されたことは、わたしに示した愛の大きさ**でわかる。赦されることの少ない者は、愛することも少ない。（ルカ 7 章 47 節）（T・M）